

7月13日 相愛保育園 公開保育を実施しました

今年度も、神戸大学大学院准教授北野幸子先生にご指導いただき、以下の目的で公開保育・カンファレンスを実施しています。

◎乳幼児教育ビジョンの基本理念「主体性を育む乳幼児教育」の推進に向け、研修等を通じて、園・校種、公私を越えて共に学び合う。

◎保育を公開し、大学の研究者による指導・助言を受け、実践者も参加者も互いに保育を振り返り、学び合い質の高い乳幼児教育を目指す。

第1回目は、相愛保育園でした。初めての公開保育ということもあり、園の先生方は緊張もされていましたが、とても勉強熱心で、子どもの主体性を育てたい、保育を変えたい、学びたいという思いが伝わってきました。下記のテーマの通り、遊びの時間の工夫や子どもの興味・関心を引き出し、夢中になれる環境、子どもが自分で考え、行動するための保育者の関わりなど、まさに試行錯誤されている様子が感じられました。暑い日ではありましたが、子ども達もそれぞれの遊びを楽しむ姿が見られました。

参加園

永福保育園	朝来幼稚園
岡田保育園	倉梯幼稚園
さくら保育園	橘幼稚園
昭光保育園	舞鶴幼稚園
平保育園	
タンポポハウス	
東山保育園	
やまもも保育園	
八雲保育園	
うみべのもり保育所	
中保育所	
西乳児保育所	

【公開保育 研究テーマ】

保育者自身が他園の公開保育等に参加する中で、園の特色も活かしながら、遊びやその時間、環境、主体性を育む保育について学びたいと考えている。子ども達が自分で考え、行動したり、遊びに夢中になったりするためにはどのような環境が必要なのか、どのような関わりをしていくとよいのか、試行錯誤している。

【公開保育の視点】

主体性を育むための時間、環境、遊びや保育者の関わりについて

事前に環境を整えるだけでなく、遊びの途中でテントや机を移動し環境を整えれば、そこがどろんこ遊びのエリアになる。子どもの興味・関心を見とること、臨機応変に環境は変えていってもよい。 ～北野先生カンファレンスより～

【砂場で川作り遊び】 5歳児

砂場で「川をつくらう」と数人の子ども達が集まり、水をバケツで運んでいた。といを使って水を流そうとしたり、船を浮かべたりしていた。



<北野先生コメント>

川は、流れがあるとおもしろく、一周できるとなおおもしろい考える。流したり、浮いたり、発見も増え、さらに探求も深まるのではないかな。そのためには、水の量が必要となる。バケツで運ぶのもいいが、子どもと相談して近くにあったホースを持ってくると遊びも変わってくるのではないかと思った。また、流れを作るには、高低をつけるとよい。といをどのように使うといいのか、保育者も一緒になって試してみるとよいと考える。



【泥・水遊び】 3歳児

自分の好きな遊びのところへ駆け出す3歳児。砂場や噴水、水たまりなど自分で場所や遊びを見つけて遊んでいた。

<北野先生コメント>

テントも机もないけれど、自分で水たまりを見つけて、泥で黙々と遊び出す子がいた。おもしろいと思う場所や遊びを自分で見つけることはとても大事だと考える。事前に環境を整えるだけでなく、遊びの途中でテントや机を移動し環境を再構成すれば、そこがどろんこ遊びのエリアに発展していくと思われる。子どもの興味・関心を見とること、臨機応変に環境は変えていくとよいと考える。



【環境】

園庭にはテント、水、砂、スプリンクラー(水)、色水・・・子どもの興味・関心から整えられた環境があった。幼児クラスの廊下には共有の絵本やままごとのコーナーがあり、5歳児の部屋には製作遊びのコーナーが設置されていた。



<北野先生コメント>

環境は、子どもの姿をよく見て、子どもと一緒に再構成するとよいと考える。調べたり、比べたりできる探究するコーナーがあるとよいと思う。

5歳児の部屋は、イメージした物をクラスで共有し、部屋全体をダイナミックに活用して、一つの遊び場として発展させるとさらに楽しくなると考える。3歳児の部屋にも製作コーナーを設けると、自分なりのイメージを持って様々な素材に触れることにつながると思われる。



【ごっこ遊び】 2歳児

ままごと、車(ブロック)、手先を使った遊び、絵本など、子どもの興味・関心をもとに年齢発達に合わせた環境を準備されていた。子どもがとても集中して遊んでいた。

<北野先生コメント>

子どもがイメージを持って遊んでいる。生活経験の模倣の姿がとても多い。フライパンを持って、左手でコンロの火の調節をしながら料理していたり、お皿を洗うのもポンプで洗剤を出して洗っていたり、ひとつひとつの仕草の中に生活のイメージが繋がっているのではないかな。保育者が考えて環境を整え、考えて関わっていることが感じられた。



グループワーク

【相愛保育園より】

◎（公開保育を受ける前）いろいろな公開保育に参加させてもらって、他の園の子どもと比べて自園の子どもは、「せんせいどうするの？」など、自主的な自分からという姿がなかった。そこで、保育士が話し合い、まずは環境を変えてみようということに至った。

◎ままごと遊びでは生活にあるものを手作りしてみた。（冷蔵庫、掃除機、洗濯機、レンジなど）目新しいものがいっぱい並んで、子どもたちも使っているのが戸惑う姿があった。遊び込むというよりも、玩具を点々とする姿が多かった。物も壊されてしまし、食べ物も床に散らばりつばなし、その都度保育士も試行錯誤し、話し合った。

◎遊び方を知らないのでは？と思い、保育士も遊びに加わり、遊び方を知らせるような関わりを心がけるようにした。徐々に年長を中心にジュースなどを見立てて作れるようになっていたりし、やりとりができるようになり、子ども同士で役を決められるようになっていたり、ごっこ遊びになりつつある。

◎次の日も同じ遊びがしたいな一と言うようになり、遊びのつながりも出てきた。しかし、小さい子に教えたり、一緒に遊んだりする関わりはまだまだなく、一緒に空間にいて同じ遊びをしている。時々会話や関わりがある程度。

◎公開保育に向けての取り組みの中で、「自分たちの保育を見つめ直して環境を保育士同士で毎日考えているいろいろ試行錯誤しながら進めていく」ことを心がける中で、子どもたちもケンカなども減り、楽しそうに遊ぶ姿が見られるようになってきた。

◎公開保育がゴールではないので今後子どもたちに関わって、よりよい保育ができるように勉強していきたいと思う。

【グループワークからの質問～北野先生回答】

Q、3歳児さんの振り返りは必要か？

A、3歳から振り返りはしてほしいと思っている。2歳の子どもの81パーセント。日本の子どもの4千人でデータを取ったところ、言葉の語尾に「ね」と言う言葉をつける発達をしている。「〇〇だったねー、楽しかったねー」など、いわゆる共感と他者に対する関心が出てくる。だからこそ、子どもたちには3年保育を保障したい。3歳児さんには友達と一緒に共感したり、楽しかったりを感じてほしい。振り返りも全員でなくても、遊んでいるその場で5、6人、10人ほどでもいいので、一緒におもしろいとか、楽しいとか、自分はしていないけど友達がしていたことに共感して、また自分がやってみたいと思ったりするのが集団教育の醍醐味。家庭教育ではなかなかできない。友達と共に学び合い、共感し、経験の幅を広げていき、社会性の幅を広げていく大事なことなので、3歳児の振り返りはしてほしいと思っている。

Q、公開保育の見方と視点

A、これが絶対いい保育と言う唯一無二の保育があるわけではない。園ごとに、またクラスごとに、さらには時期や子どもの様子によって環境は変わる。ただ、公開保育を見る時の視点はあ

◎クラスの中に入った時には、「ままごと」「手指使う工作（ブロックなど）」「微細運動、製作」「絵本」「読んだり調べる、探究するコーナー」などがあるかを実際は見ている。

◎自分の視点を鍛えてみたいと思う方は「エカーズ」や「環境評価スケール」など環境を見る時の指標などが国によってはあるので、そういったものを使って頂くのもよいのではないかと。

◎いろいろな掲示物の目線が子どもの目線になっているかも見ている。また、子どもとの相互作用で環境構成がなされているか。物を配置する時も子どもたちに聞いてみてどこに置くのか

決めて
みてもいいのかもしれない。子どもの状況や学び、好奇心と

関連させて構成してほしいと思う。

◎公開保育を見て1番見ているのは子ども！子どもが抑圧されていないか。子どもが笑顔であるか。自分が発揮されているか。それとも我慢させられていないか。そして、子どもがやりたいこと、遊びたいことがあって、遊ばされていて何をしたいか分からなくてフラフラしていないか、自分の好きな遊びやしたいことがわかっているのか。子どもが幸せかどうかを見ている。

Q、自園と比べる時にどう見るとよいのか

A、まず、自分の園と違う所が目についてしまう。よくないアプローチの方法をツーリストアプローチと言う。旅行者のようなアプローチ。海外旅行に行く時は、一生に1回ぐらいしか行かないので、初めての所では違いばかりが目についてしまう。でも、実はよく知り、学ぶためには、類似性や違いが何によって生じているか、ここは取り入れたい部分だ、これは自分は気をつけて同じようにならないようにしましょう、など深みがあり、そこから学んだり、そこと学び合ったりの関係が、理解を進め、共存したり共生したり、一緒に同僚性を発揮してみんなで学び合う、同じ地域性を作っていくということになる。1回見るだけでは異質性しか見えてこない。そこにある芯の部分や文脈など自分のものとして学ぶことができない。そのため、いろいろな園を見に行ったり、同じ園を何度も見に行くことで、上記にあげたような視点、理解につながっていく。



カンファレンス

幼児期で育みたいのは、楽譜が読めたり、楽器が弾けることよりも、その前の段階の音楽を楽しむ、味わう、音を感じる力である。

【指導案について】

◎保育のカリキュラムは小学校とは違い教科書がない。予定（教科書）通りにする必要はない。指導案に書いた内容を、書いてあるからやらなきゃと、堅く考える必要はないと考える。

◎子どもとの相互作用で保育を創ることが期待される。子どもが、今何に興味を持っていて、何をしようとしているのか、どんな育ちがあるのかを洞察することが望まれる。子どものことを一番よく知っている先生こそが状況を判断し、臨機応変に対応してほしい。ねばならないというよりも、肩の力を抜いて、自分の目と耳を信じて、そして、何よりも、自分たちは保育の資格を持っているプロなんだという自信や自負を持って保育にあたってほしい。

◎3～5歳が無償化になる。子

どもの人権を考えると、保育士、幼稚園教諭などの保育専門職こそが質の高い保育を子ども達に提供してほしい。すべての日本の子ども達に保育専門職による3年間の教育を保障したい！子育て支援や就労支援の観点からだけではなく、子どもの教育を受ける権利の保障を具現化したい。

【外部講師について】

◎外国語の外部講師は必ずしも、その国での国語教育の教員免許を持っているわけではない。実際、週に1回ほど英語を学んでも、英会話は上達しない。

◎外部講師を呼んで体育教室をしている園の方が子どもの運動能力が低いといったクリアな結果もある。

◎英語、運動、音楽などは親のコンプレックスや不安を背景に、商業主義的に導入している場合もあり、そのことを危惧している。器械体操や、鉄棒や跳び箱は学習指導要領によると小学校3年生から学ぶ。

◎外部講師ではなく、担任や園の先生こそ保

育にあたってほしい。子どもを一番理解している保育者が子どもの教育を実施することが望まれる。

◎音楽の分野では、幼児期で育みたいのは、楽譜が読めたり、楽器が弾けることよりも、その前の段階の音楽を楽しむ、味わう、音を感じる力である。音楽を聴いて感じる力、悲しい感じ、楽しい感じといった音の感受性が、早期から楽器のトレーニングをさせられている子の方が低いとも言われている。

◎まずは、音を楽しむ、リズムにのる、そして大好きな先生と大好きなクラスの友達と遊びながらすることを大切にほしい。

◎幼児期にピッチマッチング能力がつくと言われている。ピッチマッチングとは、聞いた音を再現する力である。ドミソで聞くより同じ音階で「おはよう」と歌う音の聞く方が、ピッチマッチングがしやすいことがわかってきている。男性より女性の声、さらには子どもの声の方が幼児にとって合わせやすいことが分かっている。



7月12日 ドキュメンテーション研修(フレッシュ向け)を実施しました



今年度も、新任の保育者やドキュメンテーションを初めて書く保育者等フレッシュな皆さんを対象に研修を実施しました。内容は、ドキュメンテーションについて北野先生の講義と、乳児のドキュメンテーションをワークシートの視点にもとづいて見とったり、グループで検討したりしました。また、幼児の事例をもとに3~4人のグループに分かれて、ドキュメンテーションを書くワークをしました。最後には、みんなで書いたドキュメンテーションを見ながら、北野先生の助言をいただき、学び合うことができました。

参加園

- 永福保育園
- 岡田保育園
- さくら保育園
- 昭光保育園
- 平保育園
- タンポポハウス
- 東山保育園
- 八雲保育園
- うみべのもり保育所
- 中保育所
- 西乳児保育所
- 朝来幼稚園
- 池内幼稚園
- 倉梯幼稚園
- シオン幼稚園
- 舞鶴幼稚園

の学びを見とる視点が不可欠です。しかし、経験年数の少ない保育者にとっては難しいこともあります。研修を通じて、自分の保育を振り返り、見直しながら、保育の引き出しを増やしていくことが保育者の育成につながります。公私に関係なく、市内の同年代の保育者同士が同僚性を築き、互いに高め合っていくきっかけになるよう、今後もこのような研修を実施していきたいと思います。

講義

好奇心や探求心、憧れを起点とした子どもと保育者との相互作用を重視した保育を可視化していく。他者の気づきが自分の気づきになるように可視化する。保育者の関わりや意図的な環境を可視化する。



【ドキュメンテーションとは・・・】
◎ドキュメンテーションの「tion」とは行為を指す言葉である。

- ◎ドキュメンテーションとは、プロジェクト型保育の記録であり、可視化のひとつである。
- ◎子ども中心の生活や遊びを捉えて書いていくことが大切になる。
- ◎子ども中心の生活や遊びを捉えるということは、保育者が育ててほしい子どもの姿をしっかりねらいとして持つことが大切である。そのためには、子どもは今何に興味を持っているんだろうという細やかな視点を持つことが重要になる。
- ◎何に興味を持っているのか、何に感心があるのか、あるテーマについてとことんこだわる

- ことができるようになって保育が深まっていく。
- 疑問⇒試行錯誤⇒創意工夫(その支援)⇒問題解決の学び
- ◎トピックスとは、子どもの生活と関連の濃いもの自然との関わりが濃いものがよい。
- ◎プロジェクトアプローチ(方法)とは、一人一人の子どもに対し保育者が応答的に関わることである。人・物・環境との相互作用でもある。
- ◎個別から集合性へと発達していく中で子どもが何に興味を持って何に興味を持っているのか、遊びの意味と保育者の役割をしっかりと捉えていく必要がある。
- ◎他者の気づきを自分(子ども自身)の気づきにつなげていけるように関わる。
- 【何を可視化するのか】
- ◎事実・解釈・学びのプロセスを可視化する。

- ◎好奇心や探求心、憧れを起点とした子どもと保育者との相互作用を重視した保育を可視化していく。
- ◎他者の気づきが自分の気づきになるように可視化する。
- ◎保育者の関わりや意図的な環境を可視化する。
- ◎能動的受容・・・待っているだけではなくて意図があって見守っていることを伝える。
- ◎教育的見守り・・・〇〇したのは誰？保育者なのか？子どもなのか？その関わりを書いていく。
- ◎5領域・10の姿(説明言語)を使って書くことわかりやすい。
- ◎保護者にも育ちの見通しや発達の視点、学びの見通しを知ってもらう。

グループワーク

どのドキュメンテーションも同じものではなく、それぞれの良さが感じられるものに仕上がりました。同じ事例であっても、その見とり方、書き方によって受ける印象は違ってきます。保育の中の子どもの育ちや学びが見えるドキュメンテーションを目指して、これから学び合っていきましょう。

【タイトル】

「〇〇遊び」などの活動名ではなく、子どもの言葉や子どもの思いの入ったタイトルの方がインパクトがあります。

【きっかけ】

子どもの興味・関心からスタートしていることを書きましょう。

【子どもの言葉、姿】

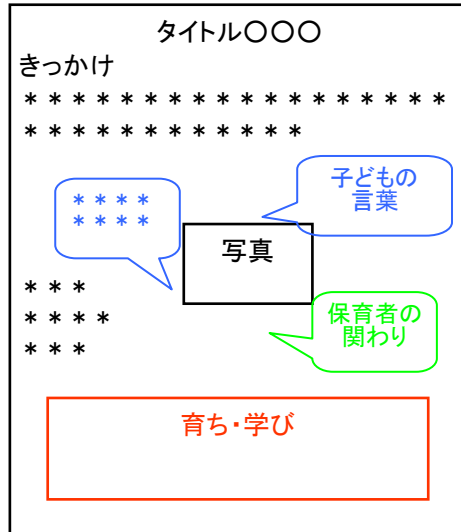
吹き出しをつけるとわかりやすいです。子どもの事実(言葉や姿)はそのまま書きましょう。保育者の感想や解釈は分けて書きましょう。

【保育者の関わり、環境】

保育者の言葉、意図的な関わり、意図的な環境を書きましょう。つまり、教育的な意図を書きましょう。

【育ち・学び】

子どもの発達、5領域、幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿を活用して、子どもの育ちや学びを書きましょう。



【重要なポイント】

- ❖「できた、上手になった」という結果だけではなく、プロセスを伝えましょう。
- ❖単なる手順の説明や経過報告にならないよう育ちや学びを意識して書きましょう。

